

食と緑の

西三河地域レポート2025

ー 食と緑が支える豊かな「あいち」をめざして ー

(2024年度の実施報告)



2025年9月

目 次

1	食と緑の西三河地域レポート作成の趣旨	1
2	重点推進事項の取組状況	2
(1)	農業の担い手の確保・育成	2
(2)	産地戦略による農業生産力パワーアップ	3
(3)	地域営農と農業生産基盤整備の推進	4
(4)	資源を生かす林業の実現	5
(5)	持続可能で活力ある水産業の実現	6
(6)	農山漁村の防災・減災対策の推進	7
3	「食と緑の基本計画 2025 西三河地域重点推進プラン」の取組目標に対する進捗状況	9

表紙 写真の説明



一番茶手摘み(西尾市)



鳩ヶ池の洪水対策施工状況(岡崎市)



海苔の種付け作業(西尾市)



あいち伐木競技大会の状況
(優秀賞受賞者:岡崎森林組合職員)

1 食と緑の西三河地域レポート作成の趣旨

愛知県は、将来にわたる安全で良質な食料等の安定的な供給の確保とその適切な消費及び利用、農地や森林等の有する多面的機能の発揮による安全で良好な生活環境の確保を基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を2004年に施行しました。

この条例に基づき、食と緑に関する施策の基本的方針として、2005年に「食と緑の基本計画」を策定して以来、5年ごとに見直しを行い、現在は第4期目の計画となる「食と緑の基本計画2025」（以下「基本計画」という。）を2020年12月に策定・公表しました。

西三河農林水産事務所では、この基本計画のめざす姿の実現に向け、西三河地域の特徴と課題を踏まえた具体性の高い実行計画として、西三河地域重点推進プラン（以下「プラン」という。）を2021年3月に策定し、基本計画の推進とともに地域として重点的に推進しています。

この食と緑の西三河地域レポートは、プランの重点推進事項を的確に推進するため、プランの進捗管理の一環として、2024年度に実施した主な取組の内容や地域の特徴的な取組事例を取りまとめたものです。

「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」の基本理念

- 将来にわたって安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること。
- 将来にわたって森林等の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な県民の生活環境が確保されること。



2 重点推進事項の取組状況

(1) 農業の担い手の確保・育成

地域農業の将来を支える新規就農希望者を始めとした意欲ある人材の確保と育成に取り組みました。

また、女性農業者の経営参画の促進や、家族経営協定の締結に取り組みました。

取組内容①

農起業支援ステーション(愛知県立農業大学校に設置)、市町及びＪＡと連携し、管内で就農を希望する者(個人 38 名、企業 3 社)の相談に対し、研修受講、就農準備、就農計画の作成を支援しました。また、新規就農者育成総合対策に位置づけられた就農準備資金等受給者の研修状況確認を行いました。さらに、基礎的な技術・経営能力の習得・向上のため、新規就農者に対して集合研修「ＮＢＡセミナー」を開催し、農業の基礎知識について習得を図りました。

西三河地域の農業の将来を担う就農希望者・新規就農者の確保・育成に取り組み、新規就農は 33 名となりました。

取組内容②

若手女性農業者を対象に「西三河女性講座」を開催し、延べ 28 名が参加しました。講座では、社会保険労務士に労働基準、社会保険制度等を学んだり、先輩農業者のほ場を訪れ、労働時間の工夫や機械化による労働負担軽減、女性の役割について直接学ぶ機会を設けました。

さらに個別指導により、生産、労務、財務等を担い、経営へ参画する対象者が増加しました。

また、農業における家族一人一人の意欲や能力を十分発揮させ、役割分担を明確にするため、家族経営協定の締結を進めました。その結果、14 戸が家族経営協定を締結(新規 10 戸、再締結 4 戸)し、締結農家数は 298 戸となりました。



就農計画作成について説明



NBA セミナーの様子



女性講座(労務管理について)



女性講座(先進農家視察)

(2)産地戦略による農業生産力パワーアップ

生産者、農協、市町等の産地関係者からなる産地活性化プロジェクトチームに参画し、産地戦略※の達成へ向けて、施設整備や担い手確保の取組などへの支援を行いました。

取組内容①

産地活性化プロジェクトチームでは、産地規模の維持・拡大を図るため、新規就農者の確保・育成を大きな柱として取り組んでいます。

J A あいち三河の「いちご塾」(R 1～)、「なす塾」(R 3～)、J A 西三河の「いちごスクール」(R 1～)などの新規就農者確保育成プロジェクトでは、関係者で検討を重ねた充実した研修カリキュラムと就農後の手厚いサポート体制を構築し、ほぼ 100%の就農率と定着率を誇っています。新規就農者の中には就農直後から生産者部会の平均以上の単収をあげ、品評会で上位入賞するなど、将来の産地の中心的な担い手となることが期待される生産者も現れています。



「いちご塾」開講式



「いちご塾」研修風景

取組内容②

産地戦略の達成に向け、県独自の補助事業「あいち型産地パワーアップ事業」や、国の補助事業を活用し、新規就農者の栽培施設整備や高機能な農業機械の導入などに対して支援しました。

令和6年度は、いちごの栽培施設の新設2件、改修2件(西尾市)(新規就農者4名(J A 西三河いちごスクール5期生))、ぶどうの雨よけハウス(岡崎市)など、3産地、7件の事業計画について支援しました。

近年、燃油・肥料等を始めとした農業用資材価格が高騰しており、本県農業も大きな影響を受けています。新規就農者にとっても、初期投資が大きな課題となっており、補助事業に対する期待がますます高まっています。

※産地戦略：生産力の向上のため、産地・品目ごとに、「人」、「農地」、「生産技術」、「施設等」の観点から産地のめざす姿について取りまとめたもの



いちご栽培施設



ぶどう雨よけハウス

（３）地域営農と農業生産基盤整備の推進

稲・麦・大豆の新品種導入やスマート農業の推進による生産性の向上などと共に、担い手農家への農地集積・集約化や農地の大区画化、汎用化により、生産コストの削減を推進し、持続的な営農体制の構築を推進しました。また、農地や農業用施設の機能を維持するため、老朽化対策（更新整備）・長寿命化対策も併せて行いました。

取組内容①

県産ブランドである水稻「愛ひとつぶ」の出荷基準の一つである玄米タンパク質含量を、収穫後でなく、生育期間中に葉色を衛星やドローンで撮影することで、ほ場ごとに予測できる可能性が確認できました。

小麦では「きぬあかり」、「ゆめあかり」の品質及び収量の安定や、大豆の低収地域における増収に向けた取り組みとして、県農業総合試験場と協力して「大豆畝立て播種技術」の現場実証も行いました。

また、県農業総合試験場が育成した、奨励品種に採用された水稻「愛知 135 号（あいちのこころ）」について、令和 7 年からの一般栽培に向けて地域に合った栽培こよみを作成し、普及に向けた取り組みを行いました。



大豆畝立て播種機による播種作業



「愛知 135 号」の草型

取組内容②

担い手農家への農地集積・集約化や、生産コストの削減を促進するため、農地の区画整理や、農業用排水施設、農道等の整備・更新を推進しました。

令和 6 年度は、刈谷市、安城市、西尾市、幸田町内の 11 地区で経営体育成基盤整備事業を実施し、農業用水路のパイプライン化や、農地の大区画化等の整備を行いました。

また、碧南市、西尾市内の排水機場 5 箇所において、排水能力が低下したポンプの分解整備、電気設備の更新、ゲート設備や除塵機の補修などにより、ポンプの老朽化対策・長寿命化対策を行いました。



大区画化された農地及び排水路（西尾市）



ポンプの分解整備状況（西尾市）

(4) 資源を生かす林業の実現

資源を生かす林業を実現するためには、持続可能性と安全な伐木技術を持った従事者育成を重視した森林経営が重要です。持続可能な森林経営のために、循環型林業※の意義や補助制度、次世代樹種の普及に努めるとともに、安全な伐木技術を持った従事者育成を推進しました。

取組内容①

持続可能な森林経営のために重要である循環型林業について、森林所有者らに仕組み（伐採・植栽だけでなく、獣害防止施設の設置や下刈り・除伐等の保育作業までを含むことなど）や補助制度などについて地元会合に併せて説明会を実施しました。また、成長が早く次世代の植栽樹種として期待されるセンダンの普及の一環として、地域の林業従事者に対して幹を通直にするための芽かき作業の普及活動を実施しました。

※ 循環型林業とは

森林にある立木を木材として伐って使った後、再び植えて、森林を世代交代させて将来の木材資源を確保しながら、多様な森林を維持・保全していこうというもので、長期的な視点に立った林業本来の役割を示しています。

取組内容②

林業技術や安全作業意識の向上のため、林業経営体従事者などを対象に伐採現場での安全点検の実施や安全講習会・研修への参加を促しています。

10月5日（土）に東栄ドーム（東栄町）にて、愛知県で昨年度に続き2回目となる「あいち伐木競技会 2024」が開催されました。管内の林業経営体に参加を促し、その参加者の中から岡崎森林組合所属の夏目元貴さんが優秀賞（2位）、筒井竜之介さんが優良賞（3位）を獲得しました。

※ 夏目元貴さんの競技状況画像は表紙に掲載。



循環型林業説明会



次世代樹種センダンの普及活動



安全点検状況



「あいち伐木競技会 2024」の様子

(5)持続可能で活力ある水産業の実現

漁業の担い手を確保するため、漁業に興味のある人を対象に、のり養殖と小型底びき網漁業の現場で体験研修を実施しました。また、アサリ資源の増殖を図るためアサリ資源に有害な害敵生物の駆除に取り組みました。

取組内容①

漁業の担い手が不足しており、新規就業者の確保が重要となっています。漁業は船上作業等のイメージがしづらいことから、本県では漁業体験研修を行っています。

西三河地区では、東幡豆漁協において小型底びき網漁業の乗船研修、西三河漁協においてのり養殖の陸上採苗作業の見学を行いました。

研修には、三谷水産高校の生徒を含め計7名が参加しました。操業して漁獲された魚の選別や、のり網に付着した殻胞子の検鏡など、実際の作業を体験することで、漁業への関心・理解を深め、魅力を実感してもらいました。



漁獲した魚介類の選別作業



陸上採苗の見学

取組内容②

西三河地区の干潟では、アサリ漁業が営まれています。ここ数年、アサリ資源は大きく減少しています。

その要因の1つとして、ツメタガイやアカニシなど肉食性巻貝の食害が指摘されています。

そこで、漁業者はアサリ資源の再生・保護を目指し、食害生物の駆除に努めています。例えば、海上では船で目の細かいけた網をひいたり、干潟ではツメタガイやその卵のうを徒手で直接採取したりしています。

駆除には干潟全体で取り組むことが重要で、親貝や稚貝の駆除、卵のうの一斉除去など粘り強く行うことが有効と考えられます。



駆除したアカニシなど



干潟での駆除の様子

(6) 農山漁村の防災・減災対策の推進

大規模地震での安全性や豪雨耐性が不足する農業用ため池の決壊を防ぐため、対策工事を進めるとともに、ため池について広く県民の皆様にご覧いただくために「ため池PRイベント」を開催しました。また、排水能力が不足する排水機場の更新を進めました。森林においては、荒廃するおそれのある溪流には治山ダムや流路工など、山腹崩壊のおそれのある斜面には土留工や法枠工などの治山施設を設置し、山地災害に対する防災機能の向上を図りました。

取組内容①

大規模地震や豪雨により決壊の恐れがあった岡崎市内の足延池及び鳩ヶ池では、地震対策として堤体の補強を行うとともに、豪雨対策として洪水吐の能力増強を行いました。

また、ため池の役割や防災対策の必要性について広く県民の方々に知っていただくために、11月30日（土）にため池PRイベント「あしのべ池・はとが池 秋のため池ウォークラリー」を開催し、多くの方にため池のことを学んでいただきました。



足延池の堤体補強状況



ウォークラリーの実施状況

取組内容②

老朽化により排水能力が不足していた幸田町内の新田排水機場では、降雨による農地等のたん水被害を防止するため新たな機場の整備を進め、令和6年度に供用が始まりました。

新たな機場は、建屋や下部工等の構造物の耐震性能も現行の基準を満たす構造となり、大規模地震が発生した場合の安全性も確保されました。



新田排水機場（全景）



新田排水機場（ポンプ設備）

（新田排水機場の排水量）

改修前	改修後
1.10 m ³ /s	1.73 m ³ /s

取組内容③

岡崎市井沢町字相若畑地内は1級河川乙川の水源地で、岡崎市の管理する井沢取水場が下流への水供給を担っていますが、上流の溪岸侵食や不安定土石の流出により、たびたび被害を生じていました。このため、水質を保全しつつ防災対策を行うことを目的として治山ダム及び流路工を鋼製自在枠で施工しました。

令和6年度に全工事が完了し、荒廃溪流を安定化することができたことから、下流の水の確保に対する安全性の向上が図られました。



井沢取水場への土石流入状況



流路工（鋼製自在枠）

取組内容④

岡崎市奥殿町字天王洞地内の山腹斜面において、豪雨により表層土の侵食・崩落があり、近接する人家への被害が発生するおそれがありました。このため、山腹の拡大崩壊を防ぐことを目的として土留工（コンクリート）を施工しました。

これにより山腹を安定化することができ、人家始め市道、農地に対する安全が確保され、防災・減災機能が向上しました。



山腹の荒廃状況



土留工（コンクリート）

3「食と緑の基本計画 2025 西三河地域重点推進プラン」の取組目標に対する進捗状況

(1) 農業の担い手の確保・育成

ア 新規就農者の確保

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	33 人/年 うちＪＡあいち三河、ＪＡ西三河いちご産地における 新規就農者の確保・育成 各 3 人/年						
実績値	30	41	40	33			
うちＪＡ あいち三河	10 (3)	13 (5)	18 (4)	11 (3)			(うちいちご)
うちＪＡ 西三河	11 (4)	18 (10)	9 (5)	11 (2)			(うちいちご)

イ 家族経営協定締結数

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	285 (30 増/5 年)						2020 年 255
実績値	268	277	288	298			

(2) 産地戦略による農業生産力パワーアップ

ア 戦略を推進する補助事業の活用

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2 件/年		4 産地/年				
実績値	8 (28)	6 (14)	5 (21)	3 (7)			産地 (件)

イ 新たな産地戦略の策定・実行

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2 産地/5 年						
実績値	2	3 (1)	3 (0)	3 (0)			(単年度)

ウ あいち型植物工場の導入面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	10%増加/5 年						2020 年 38ha/168ha
実績値	0.4%増	2.3%増	4.5%増	6.1%増			

エ 畜産クラスター事業に参画する取組主体

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2 戸以上/5 年						
実績値	0	1	0	0			

(3) 地域営農と農業生産基盤整備の推進

ア 担い手への農地集積面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	11,236ha						2020 年 9,322ha
実績値	9,537	9,572	9,675	9,681			

イー１ 新品種の普及一稲「ミネアサヒ SBL」

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	250ha						
実績値	261	295	316	332			

イー２ 新品種の普及－稲「愛ひとつぶ」・「愛知１３５号」等

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	150ha						
実績値	61	177	236	285			

イー３ 新品種の普及－小麦「ゆめあかり」

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	1,000ha		700ha				
実績値	899	932	679	619			

ウ 大豆の単収

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	20%増						2016～20 の平均 117.6kg/10a
実績値	(143.3) 22%増	(135.4) 15%増	(111.0) 6%減	(106.0) 10%減			2021～24 は年度の単収 2025 は4年間の平均値で評価

エ 農業生産基盤整備（新規）

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	140ha/5 年						2020 年整備済面積 11,919ha
実績値	0	0	96	96			

オ 農業生産基盤整備（再整備）

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	3,366ha/5 年						
実績値	132	864 (732)	2,853 (1,989)	2,937 (84)			(単年度分)

(4) 資源を生かす林業の実現

ア 管内木材生産量

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	12,000 m ³ /年						2016～19 年の平均 10,855 m ³ /年
実績値	13,409	12,780	13,303	26,491			

*年次集計のため、実績値は、各年度 12 月末現在の数値

イ 森林経営計画新規策定面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	700ha/5 年						
実績値	335.7	491.8 (156.1)	592.6 (100.8)	672.9 (80.3)			(単年度分)

ウ 木材生産に寄与する搬出間伐面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	57ha/年						2016～19 年の平均 51.5ha/年
実績値	54.3	59.4	47.0	56.2			

(5) 持続可能で活力ある水産業の実現

ア 西三河地区の海面漁業及び海面養殖業生産量

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	2 万トンの維持						2016～18 年の平均 19,922 トン
実績値	10,607	10,173	12,029	6,013			

イ 干潟・浅場及び貝類増殖場造成による漁場生産力の強化

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	5 か所以上/5 年		10 か所以上/5 年				
実績値	3	6 (3)	8 (2)	10 (2)			(単年度分)

ウ 漁業者によるあさり等の海産種苗の放流

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	7 種/年						
実績値	7	7	7	7			

(6) 農山漁村の防災・減災対策の推進

ア 農業用排水機場、ため池等の更新・整備

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	受益面積 1,147ha/5 年 内訳 基幹的排水機場 11 か所 防災重点ため池 10 か所						
実績値	132	489 (357)	590 (101)	667 (77)			(単年度分)
基幹的排水機場	1	4 (3)	5 (1)	6 (1)			
防災重点ため池	3	4 (1)	9 (5)	11 (2)			

イ 治山施設の整備による防災機能の向上面積

項 目	2021	2022	2023	2024	2025	達成率 (%)	備 考
目標値	200ha/5 年						
実績値	40.2	83.3 (43.1)	115.8 (32.5)	147.0 (31.2)			(単年度分)



食と緑の西三河地域レポート 2 0 2 5

—食と緑が支える豊かな「あいち」をめざして—

2025年9月発行

愛知県西三河農林水産事務所
岡崎市明大寺本町1-4
電 話 0564-23-1211 内線 2436(農政課)
電子メール nishimikawa-nourin@pref.aichi.lg.jp



西三河農林水産事務所